



# 園だより —1月—

令和7年12月18日

浦和明の星幼稚園

園長 栗田 亨

正にみんなで創り上げた60周年記念「つなぐ、つながる」クリスマス会。保護者ボランティアの方に作っていただいた金ぴか衣装のひかり組、可愛さピカ一でした。3番の歌詞までハッキリ歌い踊りきった年少組、可愛いだけじゃありません。曲に合わせて歌い方を考えた年中組、乗っていました。言葉の端々、足指の先まで「本当のクリスマス」を伝えた年長組、やり切った感で溢れていきました。セレブレーション、限られた時間で荘厳に神髄を詰め込みました。役者が揃った記念演奏、サンタからのプレゼント、子どもたちが一番喜んでいました。お疲れ様でした。そして、有難うございました。

16日のお誕生日会では、各学年がクリスマス会を前に作ったサンタブーツに書かれた言葉を紹介しました。年少組は、サンタさんへのお願いです。一番多かったのは、シンカリオンなど交通系のおもちゃです。二番は、ぬいぐるみなど人形系のおもちゃ。三番は、自転車、カメラなど本物系でした。

年中組は、クリスマス会にどう参加するかです。一番多かったのが、「優しい声で歌う」。二番が、「大きな口を開けて歌う」。三番が、「大きな声で歌う」でした。聖歌隊ですから、歌に関するものが圧倒的でした。出だしの「あ」をはっきり歌うなど、教員の話をよく聞いている声が多かったです。年長組は、待降節をどう過ごすかです。三番目に多かったのが、お手伝いをする。二番目が、自分の物でなくても拾う、片付ける。一番多かったのが、困っている人、小さい子を助ける、でした。

最後に、人に優しくする時に、大切なことは何か考えました。まずは、その場の様子に気付くこと、何に困っているのか、何で泣いているか分からぬ時は、その訳を知ること、そして、自分は何ができるか、相手の立場に立って考え、勇気を持って行動することが大切だと結びました。

本日の終業式では、行事や日々の生活を中心に2学期を振り返りました。ひかり組から年長組まで、一人一人の「やってみたい」を、運動会やクリスマス会では、みんなで力を合わせて一つのことを成し遂げ、「みんなでやってみたい」を経験し、大きく成長してきたことを褒め称えました。

その後、運動会の年長の4人組の扇の技を例に、心を揃える時、力を合わせる時の掛け声「せーの」も、挨拶の一つ。朝の挨拶には、「心を合わせましょう」という意味もあることを伝えました。

そして、クリスマス会の週の出来事、これまで親の後ろに隠れるようにして登園していた年少の女の子の話をしました。その日は、母の後ろに隠れることなく、園長の挨拶に、「お早うございます」と初めて応えました。「声が出た」と母と一緒に大喜びしたこと。この子の心に、「みんなでやってみたい」ご挨拶をして「みんなと仲良くしたい」という気持ちが、湧き上がったのだろうと伝えました。

続けて、冬休み、お年玉をいただいたら?と問うと、誰もが「有難う」と言うと答えました。大切なのは、どのように言うか?「明るく」「伝わるように」「目を見て」。特に、相手と、目と目を合わせてご挨拶をすれば、相手に「有難う」の気持ちがしっかりと届くと伝え、冬休み、出会った人に、いただき物をした人に、明るく、伝わるように、目と目を合わせてご挨拶しましょう、と話しました。

そして、3学期の始業式の朝、楽しい冬休みを過ごした皆さん全員と、ご挨拶の最終進化系、「目と目を合わせてご挨拶する」ことを楽しみにしている、とまとめました。

保護者の皆様には、特に2学期は記念行事が多く、例年以上に園に足を運んでいただきました。園としては、駐車場など限りある条件の中で、できるだけ大勢の皆さんにお子様の成長の姿を見ていただきたいという思いで取り組んできた次第です。皆様のご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。

皆が心待ちにしている本当のクリスマス、新しい年、ご家族でお楽しみください。

新年もよろしくお願いします。